

ありのひふきはしれいみずく秋ちかふ野は成にけり、桔梗の花也、きちかふ一重草、異名也、七月のはもうすやうの露はや一重草は

〔物類稱呼〕三桔梗三、やう 信州上田にて、くはんさうと云、

〔古今和歌集〕十きちかうの花

あきちかう野は成にけり白露のおける草葉も色かはりゆく

〔備字例附録〕きちかう

さちかうは桔梗なり、桔は玉篇に居屑切にて、漢音ケツ、吳音ケチなるを、いかでキチとはするならむと思ふに、太田氏云、桔音結、吳音キチ、此ハ十七轉質韻ノ吉ニ轉ズルナリ、故ニ田陳音同ジク窒兩轉ニ出タリ、といへり、梗ハ漢音キエイ、吳音キヤウにて、キヤの切かなれば、やがてカウなり、今俗呼は、桔の韻を省き、梗は本音のまゝに、キ、ヤウと呼べり、

〔宜禁本草〕乾桔梗 辛苦微温、治咽喉痛、温中消穀、主肺氣促嗽逆、排膿療肺癰、唾腥吐膿、能開提氣血、治鼻塞、葉名隱忍、二三生煮食之、

〔大和本草〕六桔梗 春宿根ヨリ生苗、山野ニ多シ、秋碧花ヲ開ク、又白花アリ、八重アリ、藥ニハ單ノ碧花アル根ヲ、冬月及正二月ニ採ヲ爲良、小根ハ性薄シ、大ヲ可用、花鏡曰、以雞糞壅則茂ル、實ヲマケバ早ク生長ス、二年開花根亦大ナリ、花ヲ賞スルニ、苗ヒキ、時カレバ、叢生シテ花多ク莖不高シテヨシ、

〔重修本草綱目啓蒙〕七桔梗 アリノヒフキ和名、アリノヒアフギヲカド、キ、古歌ヒト

エグサ同上 キチカウ佛吉草 和方クハ、クハ信州、セイチ江州、今ハ通名キ、ヤ

ウ一 吉祥杵耕 菩萐訓蒙 都乙羅叱郷藥 道乙阿叱村家

山中ニ自生多シ、向陽ノ地ニ生ズ、大抵沙參ノ形狀ニ似テ毛ナク、白色ヲ帶ブ、コレヲ斷バ白汁ア